

自主シンポジウム24

保育を支えるとは —その多様なアプローチ—

企画者・司会者	片川 智子 (保育総合研究所)
	金 瑛珠 (千葉明德短期大学)
話題提供者	阿部 和子 (聖徳大学短期大学部)
	柴崎 正行 (大妻女子大学)
指定討論者	大場 幸夫 (大妻女子大学)

【企画要旨】

本シンポジウムは、昨年度保育学会第56回大会で開催した自主シンポジウム「保育相談事業の現状とこれからの課題」に連なるものとして位置付けられる。前回のシンポジウムでは、それぞれの自治体の保育相談事業に具体的なシステムの違いがあることや、保育相談に携わる際のスタンスが相談者によって少しずつ異なることが示された。加えて、就学に関することや、保護者とのかわりにおけるスタンス、“外部から”保育現場に関わるその他の職種との連携など、保育相談を進める中で直面する課題が挙げられた。これらの課題に関することも含めて、保育相談を進める中で立ち上がった課題に対してどのように向かおうとするのかは、保育相談者のそれぞれのスタンスやその都度の状況性に関わることとなる。このことは、そのまま保育相談者のスキルの問題に帰することではなく、それぞれの立ち位置から行われようとしている事柄の違いであると捉えられる。

前回は、保育相談員が保育現場での出来事に何らかの形で関わり、多様な在り方で保育を支えようとしている現状が見えてくると共に、“相談者”以外にも多様なかわりを持っていることが明らかになった。そうだとすれば、保育実践を進める保育者とのやりとりを通して「保育を支える」ことに関しては、いわゆる“相談員”という肩書きを持つ者だけではなく、さまざまな立場の人を含むといえる。

そこで、本シンポジウムでは多様な関わり方が可能な「保育を支える」とはどのようなことを検討することを目的に、「保育を支える」ことについて実際にどのようなことが行われているかを見ていきたい。また、それぞれの抱える課題や「保育を支える」ことをどのように捉えているのかを聞きたい。そうすることで、「保育」に対する関わり方の多様性や、スタンスの多様性が明らかになるのではないかとと思われる。この違いを明らかにすることによって、それぞれのおかれた状況の中での役割や限界を照らし出すことができるのではないかと考える。さらにはそれぞれの立ち位置からさまざまな立場の、“保

育に関わる”方々とのつながりのもちょうも見えてくるのではないかと思うのである。

また、保育者の方から、保育現場から見た「保育を支える」ことについての意見を伺いたい。実際にどのようなことを「保育を支える」と捉えられるのかを聞き、今回のシンポジウムで示されるいくつかの「保育を支える」実践に検討を加えたい。

しかし、ここで断っておくと、企画者自身、保育相談員というスタンスに身をおき、現場とかかわりを持っているが、そのときに「保育を支えている」という実感は必ずしも持っていない。“相談をする—相談をされる”という関係の中のみならず、そうでない部分も含めて、保育の場において結果的に保育者を支えることになっていることは考えられるが、「保育を支える」といったときには具体的な状況が浮かびにくい。そのため、このシンポジウムを通して、みなさんと模索していきたいと考えている。

なお、シンポジウムの形式は前回同様、ラウンドテーブルの形で行い、参加される皆さんと共に話題を共有していきたいと考えている。そのため、話題提供者が当日持ち寄るフォーマットを右に掲載しておくので、参加される方も各自用意してくださることを期待したい。

【指定討論者として…大場幸夫】

「保育を支える」実践の多様さという話題が、実際にどれほどの広がりや深まりを得られることになるのだろうか。いま相談員という役割を担う者の一人として、討論に参加するとき、私は相談のあり方や枠組みの問題と同等かそれ以上に、自分がどのように実践者と討議を重ねて、実践の協働に与してきたかを問い直したい、という気持ちに動かされている。おのおのが、どのように保育実践に臨んできたのか、そのことを語り合う過程で、相談という営みの本質や支援という行為のあり方を問い直し、多様な働きの中から新たなネットワークの可能性が生まれるかどうか、そのことを確かめたい。

【話題提供者・参加者の発表要旨フォーマット】

氏名	所属
①現場への入り方	
②相談に至るプロセス	
③相談にあたっての配慮点・課題	
④相談を通して考える「保育を支える」とは？	